

機関番号：11501

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008～2010

課題番号：20520557

研究課題名（和文）19世紀後半期英米圏の美術産業・美術教育とフェノロサの思想形成
文化交流史的検討研究課題名（英文）Ernest F. Fenollosa, Art Education, and the Art Industry in the
Anglo-American World during the Second Half of the 19th Century

研究代表者

伊藤 豊（ITO YUTAKA）

山形大学・人文学部・准教授

研究者番号：40344775

研究成果の概要（和文）：上記の研究テーマに関連して、科研費交付期間である3年間で5本の論文を出版し、また5回の学会発表を実施した。いずれの成果も先行研究が皆無あるいは希薄な分野を扱い、また今回の科研費研究テーマの問題意識に立脚しつつ、フェノロサの思想と行動を彼の生きた同時代の中で総体的に位置づけようと試みたものであり、今後のフェノロサ研究全体の進展に少なからず寄与するものであると予想される。

研究成果の概要（英文）：During the three-year Kakenhi grant period, I published five papers and made five conference presentations regarding the above described research subject. My papers and presentations explored a number of topics which, despite their historical significance, had never or seldom been investigated before. In this research project, I tried to articulate the overall position of Fenollosa's art philosophy in relation to his contemporary Anglo-American world.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2009年度	600,000	180,000	780,000
2010年度	300,000	90,000	390,000
年度			
年度			
総計	2,100,000	630,000	2,730,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・史学一般

キーワード：フェノロサ、文化交流史、美術産業、美術教育、アメリカ合衆国、イギリス

1. 研究開始当初の背景

美術思想家のアーネスト・F・フェノロサ（1853～1908）に関するこれまでの先行研究では、日本美術にとってのいわば「恩人」として彼を捉えるのが定番の手法であった。一方でそうした研究のほとんどすべては、フェノロサの事跡を彼個人の才能や資質へと帰することにとどまり、その歴史的意

義を同時代の世界史的文脈で位置づけるには遠く至っていなかった。

一方で私は、フェノロサの美術理論や日本美術振興プロジェクトを、来日以前の彼が暮らしたボストンおよびその周辺における美術産業および美術教育思潮の延長線上で考察するという、従来とは相当異なる観点からの研究を進めていた。しかしながら、上述のような研究過程を通じて見えてきたのは、日

本美術復興をめぐるフェノロサの構想やその美術理論が、当時のアメリカからの影響という要素に鑑みただけでは十分に解明され得ないということであった。後年の彼が日本において構想・展開した美術振興プロジェクトは、デザイン力の重視や国富増大のための美術産業振興といった点で、同時代のアメリカで進行していた美術教育改良の動きのみならず、そうした動きの淵源であるイギリス美術教育・美術産業の展開とも、多くの対応を示していた。

つまりフェノロサ美術思想の史的意義は、日米両国の文化交流史という軸上のみでは検討しきれぬものでなく、むしろ英米において展開していた美術教育・美術産業の流れをも考慮に入れることを通じて、十全に理解できる性質のものであるというものが、研究開始当初の背景となる認識であった。

2. 研究の目的

本研究の当初の目的は、19世紀後半期におけるイギリス美術産業・美術教育が、アーネスト・F・フェノロサの美術思想の形成にいかなる役割を果たしたかを、主に英米間の文化交流史観点から考究し、解明することであった。

3. 研究の方法

科研費交付期間である3年間で、大きく分けて以下の3点の実現を目指した。(1) 19世紀アメリカ美術教育に対するイギリスからの影響を跡づける一次資料の収集。(2) 同上テーマに関する二次資料の追加的収集。(3) 収集した資料の読解・分析を行い、そうした作業を通じて得られた新たな知見を、これまでの私のフェノロサ研究へと組み入れ、論文・学会発表の形でその成果を公表する。

4. 研究成果

研究の主な成果としては、次の項目(5. 主な発表論文等)に記載のとおり、科研費交付期間である3年間で、研究テーマに関連する5本の論文を出版し、また5回の学会発表を実施した。本研究の当初の目的は、フェノロサ美術思想の史的意義を、同時代の英米の

美術教育や美術産業の展開をも考慮しつつ検討することであった。ただし実際に達成された研究を振り返ってみれば、成果がこのような枠組みに必ずしも限定されていないことは事実である。具体的に言えば、フェノロサに関して研究をおこなう過程では、彼の生涯に関連した他の人物や出来事についても種々調査することになり、その過程で出てきた興味深い事実を分析して、中間報告として世に問うたこともある(雑誌論文)。またフェノロサは日本美術を含む極東アジア文化の精華を、彼一流の解釈を加えつつアメリカへと積極的に紹介したわけだが、残された彼の著述は広範な主題をカバーするものである一方で、それらの内部にあるべき相互関連は必ずしも先行研究では明らかにされてこなかった。これについては科研費交付期間中に、特にフェノロサの言語論と歴史論の接点を探るという形で、一定の研究を達成した(雑誌論文、学会発表と)。さらに日本や東洋を含む文化的「他者」の意義をめぐることは、世紀転換期のアメリカにおける解釈も同様ではなく、したがってフェノロサが持論を開陳した際には、他の知識人との激しい対立が観察されることもあった。これに関しては特にF・M・クロフォードとの関係を扱い、研究成果をまとめることができた(雑誌論文と、学会発表と)。

一方で当初の研究テーマについては、一定の業績をあげ得たものの(雑誌論文、学会発表)、研究自体が終了したわけでは決してなく、今後もまだまだ論文等で成果を公表していくことを計画している。いずれにせよ、今回の科研費交付期間中に出した論文は、どれも先行研究が皆無あるいは希薄な分野を扱っており、今後のフェノロサ研究全体の進展に少なからず寄与するものであると自負している。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計5件)

Yutaka ITO, "Fenollosa, Art Education, and the Art Industry in Meiji Japan", *The International Association of Japan Studies: Newsletter*, No. 7, 2011年, pp. 15-17, 査読無。

伊藤豊、「歴史叙述におけるフェノロサの方法 『エポックス』と『漢字考』をつなぐもの」、『比較文化研究』No. 93, pp. 1-12, 2010年, 査読有。

伊藤豊、「メアリ・フェノロサの『合作』

疑惑 『トゥルース・デクスター』の評価をめぐって 』、『山形大学大学院社会文化システム研究科紀要』、Vol. 7、pp.61-73、2010年、査読有。

伊藤豊、「フェノロサのガードナー夫人宛書簡 マリオン・クロフォードへの批判をいかに解釈すべきか 』、『山形大学大学院社会文化システム研究科紀要』、第5号、pp. 37-47、2008年、査読有。

伊藤豊、「F・マリオン・クロフォードの仏教観と世紀末アメリカ文化 』、『比較文化研究』、No. 83、pp. 131-140、2008年、査読有。

〔学会発表〕(計5件)

Yutaka ITO, “ Fenollosa and Art Industry in Meiji Japan ”, The 6th Convention of the International Association for Japan Studies、2010年10月2日、東京工業大学大岡山キャンパス。

Yutaka ITO, “ Toward the Pictorial Visibility of Writing: E. F. Fenollosa, the Chinese Ideogram, and the Reality of History ”, The XIXth Congress of the International Comparative Literature Association、2010年8月17日、Chung-Ang University, Seoul, Korea。

伊藤豊、「歴史叙述におけるフェノロサの方法 『エポックス』と『漢字考』をつなぐもの 』、日本比較文学会東北支部第8回比較文学研究会、2010年7月31日、仙台市青年文化センター研修室2。

伊藤豊、「フェノロサのマリオン・クロフォード批判 19世紀末アメリカ仏教をめぐる一考察 』、日本比較文学会第70回全国大会、2008年6月21日、大妻女子大学多摩校舎。

伊藤豊、「F・マリオン・クロフォードの東洋的神秘主義 19世紀末アメリカ文化をめぐる一考察 』、日本比較文化学会第30回全国大会、2008年6月14日、京都大学吉田南1号館。

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

伊藤 豊 (ITO YUTAKA)
山形大学・人文学部・准教授
研究者番号：40344775

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：